

新型コロナウイルスワクチンについて佐賀県知事に陳情

透析患者、腎移植者へのワクチン接種が早期にできるよう訴える!!

新型コロナウイルスは4月より東京、大阪などで感染爆発が起こり3回目となる緊急事態宣言が発令され、感染流行の第4波が全国的に拡大傾向にあります。佐賀県においても、6月6日時点で感染者数が2,500名を超え21名の方が亡くなられており、報道では亡くなった方の多くが基礎疾患を有することでした。またその中には透析患者が含まれていることも確認しています。

そのような中、やっと高齢者への新型コロナウイルスワクチン接種が全国的に開始され、6月初旬の現在では供給量も増えて、佐賀県は全国的に接種率も高いですが、5月初旬頃は市町によって接種スケジュールが違い、65歳未満の基礎疾患への接種も未定で、いつになるかも決まっていませんでした。このような現状を踏まえ、5月13日に佐賀県議会棟において、木原奉文県議会議員、中本正一県議会議員を通じ、山口祥義佐賀県知事宛での陳情書を、森正典佐賀県健康福祉部健康増進課課長に古賀副会長より手渡ししました。この後、佐腎協古賀副会長、南川常務理事、縄中事務局長が新型コロナウイルスワクチンの優先接種について次のように訴えました。

「私たち透析患者は、他の疾患とは違い自宅療養ができず、必ず専門の施設で透析を受けなければなりません。また外来患者がほとんどで、集団で曜日毎にまとまって治療を受けますので、日常的に多くの人に出会う環境の中で透析を行っていることとなります。つまり、現在実施されている病院スタッフのみを優先してワクチン接種を行っても、透析患者が感染していた場合、透析施設の衛生管理状況にもよりますが、施設単位でクラスター化する可能性が高いと思慮されます。新型コロナウイルス感染症を予防するには、いまのところワクチン接種しかありません。しかし、ワクチンの供給不足などにより、なかなか接種できない状況にありますし、65歳未満の透析患者は、65歳以上の高齢者の接種が終わらないとワクチンが打てません。接種スケジュールも未定で、多くの方がとても不安を感じています。すでに佐賀県内でもワクチン接種が始まっていますが、このような状況を踏まえ、透析患者、腎移植者の早期のワクチン接種について実現していただくよう陳情致します」

この後、森佐賀県健康増進課長より、ワクチンの実施は市町にあるのですが、県としても市町には透析患者、腎移植者の方の現状は伝えますとのことでした。

陳情事項

一、佐賀県において、人工透析患者および腎移植者が年齢に関係なく、日常通院している医療機関で、優先的に新型コロナウイルスのワクチン接種ができるようお願いします。

※新型コロナワクチン接種については、かかりつけの医療機関の医師に必ずご相談ください。